

製品名: 14-3-3 ζ/δ ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab06283**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	28kDa

抗原情報

遺伝子名	YWHAZ
別名	YWHAZ; 14-3-3 protein zeta/delta; Protein kinase C inhibitor protein 1; KCIP-1
遺伝子 ID	7534.0
SwissProt ID	P63104
免疫原	抗血清はヒト 14-3-3 ゼータ/デルタ由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 196-245

背景

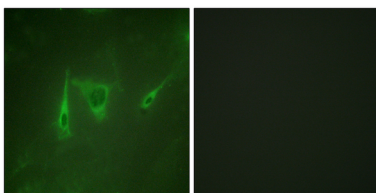
この遺伝子産物は、ホスホセリン含有タンパク質に結合してシグナル伝達を媒介する 14-3-3 タンパク質ファミリーに属します。この

高度に保存されたタンパク質ファミリーは植物と哺乳類の両方に見られ、このタンパク質はマウス、ラット、ヒツジの相同遺伝子と99%同一です。コードされているタンパク質は IRS1 タンパク質と相互作用し、インスリン感受性の調節に関与していることが示唆されています。この遺伝子には、5' UTR が異なるものの同じタンパク質をコードする複数の転写産物バリエーションが同定されています。[RefSeq 提供、2008 年 10 月];注意: 当初 (PubMed:1577711) はホスホリパーゼ A2 活性を持つと考えられていました。機能: 広範囲の一般および特殊シグナル伝達経路の制御に関与するアダプタータンパク質。通常、ホスホセリンまたはホスホトレオニンモチーフを認識することで、多数のパートナーと結合します。結合すると、一般に結合パートナーの活性が調整されます。PTM:脳特異的なデルタ型は、リン酸化される点でゼータ型とは異なります(類似性による)。MAPK8 による Ser-184 のリン酸化は、BAX の解離とミトコンドリアへの移行を促進します。PKA による Ser-58 のリン酸化は、YHAE および TP53 とのホモ二量体化およびヘテロ二量体化を阻害します。このリン酸化は、スフィンゴシンによって活性化されるようです。Thr-232 のリン酸化は、RAF1 との結合を阻害します。類似性:14-3-3 ファミリーに属します。細胞内位置:ステージ I からステージ IV のメラノソームに位置します。サブユニット:ホモ二量体。YWHAE とヘテロ二量体を形成します。ホモおよびヘテロ二量体化は、Ser-58 のリン酸化によって阻害されます。FOXO4、NOXA1、SSH1、および ARHGEF2 と相互作用します。PCTK1 および BSPRY と相互作用します(類似性による)。WEE1 (C 末端) と相互作用します(類似性による)。MLF1 (リン酸化型) と相互作用します。この相互作用により MLF1 は細胞質内に保持されます(類似性による)。Thr リン酸化 ITGB2 と相互作用します(類似性による)。Pseudomonas aeruginosa exoS (非リン酸化型) と相互作用します。BAX と相互作用します。この相互作用は細胞質内で発生します。ストレス条件下では、MAPK8 を介したリン酸化により BAX がミトコンドリアに放出されます。リン酸化 RAF1 と相互作用します。YWHAZ が Thr-232 でリン酸化されると、この相互作用は阻害されます。TP53 と相互作用します ABL1 (リン酸化型) と相互作用し、この相互作用により ABL1 は細胞質内に保持されます。AANAT (Thr-31 リン酸化型) と相互作用し、脱リン酸化および / またはタンパク質分解を阻害し、基質結合を安定化することで、AANAT 酵素活性を調節します。その後、2 分子目の AANAT (Ser-205 リン酸化型) が、同様の効果でもう一方の YWHAZ モノマーに結合することができます。AKT1 と相互作用し、この相互作用により YWHAZ がリン酸化され、二量体形成が調節されます。

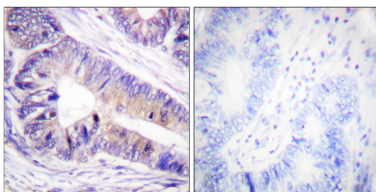
研究分野

Cell_Cycle_G1S;Cell_Cycle_G2M_DNA;卵母細胞減数分裂;神経栄養因子;病原性大腸菌感染症

画像データ



14-3-3 ゼータ/デルタ抗体を用いた NIH/3T3 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



14-3-3 ゼータ/デルタ抗体を用いたパラフィン包埋ヒト大腸癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



14-3-3 ゼータ/デルタ抗体を用いた K562 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。